

「理想的な授業」とは

山田瑞揮 (兵庫県立北摂三田高等学校)

「理想的な授業」とは

北摂三田高校 2年 山田瑞揮
 ゼミ指導教員 河合健吾

研究動機

楽しいと思うようなことがあったり、眠いと思うようなことがあったり…私たちは授業中に様々なことを感じている。

↓

しかしそういえば…

先生方が授業中にどういう意思決定をしているのか、あまり考えたことがないため、生徒・児童と先生方の「考え」の違いについてもあまり考えたことがない。

→「理想的な授業」とは？&自分の将来にもつながるのでは？

研究手法 (続き)

これらのアンケートの結果を集計し、小学校、中学校、高校ごと、その中で年代別にまとめ、グラフでまとめる。

その結果から、先生方が普段何を意識して授業を行っているのかが読み取ることができ、授業をしている側が考える理想的な授業像が見えてくるため、この結果をこの先の研究につなげていく。

先行研究と研究テーマ

(「理想的な授業」とは、ここでは教師の伝えたいこと、生徒の、授業から伝わっていることの一一致であると定義する。)

- 先行研究

授業のポイント場面での意思決定にどのような違いがあるのか

方法：録画された授業のポイント場面でもVTRを中断させ、そして先生方に教授行動の意思決定を求める「VTR中断法」を用いる。

授業場面での意思決定	「もどる」「とどまる」「すすむ」の3つのカテゴリーに
決定したことの危険性の高さ	教師経験の多い教師は少ない教師より危険性の高い決定
〃	男性は女性より危険性の高い決定
教師経験の多い、少ないでの意思決定の差	経験が多い →授業目標に注目して意思決定 経験が少ない →児童に注目して意思決定

<結果からわかること>
⇒教師歴や年齢によって判断や考えに違いがみられる

↓

このデータは小学校のみのものなので、少し内容は変わるが小学校、中学校、高校それぞれでの「理想的な授業」について研究

研究結果

アンケートの結果からわかること (集計途中)

塩瀬中学校 (16人) と北摂三田高校 (29人) での比較

- 授業内容に関する雑談を行う
 - 中学校 10人 (71%)、高校 18人 (61%)
- ペアワークなど主体的な活動の時間をとる
 - 中学校 9人 (56%)、高校 14人 (47%)
 - ⇒新型コロナの影響もある
- 研究手法②について
 - A. そのまま授業を進める
 - 中学校 8人 (50%)、高校 17人 (57%)
 - B. 授業を一時的に止めて難しい部分をもう1度やり直す
 - 中学校 6人 (38%)、高校 9人 (30%)
 - C. その範囲を基礎からやり直す
 - 中学校 1人 (6%)、高校 1人 (3%)

研究手法

- 西宮市立東山台小学校、塩瀬中学校、北摂三田高校 (参考) の先生方を対象に、大まかに次の内容のアンケートを行う。

- 授業するとき心がけていること
 - もし授業の途中に内容に対して理解が追いついていない生徒が数名いたとする。しかし時間にあまり余裕はなく、先に進まないという間に合わない可能性がある。この時どのような行動をとるか。
 - 先生方自身が思う理想的な授業とは

まとめ・展望

- 今後はこのアンケートの結果をまとめ、傾向を見つけて、小学生、中学生、(高校生) それぞれに対して、どのように教えたらいいかデータの結果から見つけ出したい。
- この研究の結果を参考にして、自分の理想の教師像というのを、見出していく。

[参考文献] <https://www.jstage/jst.go.jp> 吉崎静夫『授業実施過程における教師の意思決定』(鳴門教育大学 1983年)